

男鹿海洋高

ぶ8大会
り
総合V

全国高校ダイビングコンテスト

男鹿海洋高（男鹿市船川港）のマリンスポーツ部が、第28回全国水産・海洋高校ダイビング技能コンテスト（8月、福岡）で8大会ぶり4度目の総合優勝を果たした。男女別成績では、女子が初優勝し、男子が2位と奮闘。部員たちは「来年も総合優勝できるように頑張りたい」とさらなる成長を誓う。

コンテストは全国水産高等学校長協会の主催。8月20～22日に福岡県立水産高校で行い、10校25チーム（男子16、女子9）が参加した。一定の深さでとどまる「中性浮力コントロール」、1本のタンクを2人で使いながら泳ぐ「オクトパスブリージング」など5種目を男女それぞれで行い、各種目の合計得点で競った。

玲蘭さん（2年）と佐藤優陽さん（1年）チームは、5種目のうち4種目で2、3位の記録を残す安定感が光った。特に力が入ったのが、シュノーケルや足ひれ（フィン）を装着して泳ぐ「200メートルフリーリレー」。「一定のペースを維持、ラスト50メートルで一気に泳いだ」と佐藤さんが小玉さんにつなぎ、2位の2分22秒86でゴールした。

女子の部を制した小玉

「来年も優勝を」成長誓う



全国大会で総合優勝した男鹿海洋マリンスポーツ部のメンバー

中学時代美術部だった佐藤さんは体験入学の部

活見学で、ダイビング技術の高さに魅了されて入部を決意。「総合も女子も優勝できてよかった。自己ベストを追い求めてこれからも頑張る」と語った。

小玉さんは「できれば2分20秒を切りたいかった。悔しさがある。個人競技でもさらにいい成績を残していきたい」と意気込んだ。

男子の部2位だった小柳慶太さん（3年）と金野碧海さん（同）は高校生活最後の大会だった。

大きく順位を落とした種目はなかったが、金野さんは1位を目指した「中性浮力コントロール」で5位だったことを悔やんだ。「息のつかい方に気をつけることを心がけた。大会新記録が出されてレベルが高かったが、3位には入りたかった」と振り返った。

小柳さんは「この2人で1年からバディを組んできた。徐々に成長して成績が上向いてくるのはうれしかった。社会人になっても部活動を通して学んだことを生かしたい」と語った。

（阿部拓郎）